



2021 年度（令和 3 年度・第 7 期）

事業計画書

1. 2021 年度 事業方針
2. 2021 年度 事業計画書
3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

1. 2021 年度 事業方針

2020 年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的蔓延から 1 年以上が経過しましたが、未だ国内でも収束の見通しは立っていません。病気を抱える子どもたちの支援においても、大きくパラダイムシフトが起きた 1 年となりました。医療体制の崩壊と呼ばれるような声も日常のように聞こえ、実際に病院で入院をしている人たちからも、「手術が必要な人が受けられない」「大切な家族らと面会ができない」など、悲痛な思いが私たちの耳にも日々届いてきています。小児科病棟では、子どもが面会もできず 1 人きりで治療を乗り越え頑張っているということも聞こえてきました。

その中でポケットサポートの役割を考えさせられることは多く、今まで行ってきた事業をそのまま行っただけでは、子どもたちやご家族の安心につながらないということに気づき、苦しい思いをすることもありました。昨年 5 月の最初の緊急事態宣言の時、日本中の子どもたちがステイホームを余儀なくされる中、自宅療養中の子どもたちとテレビ会議システムでつなぎ、励ましあっていたときのことで。私たちが「何かしなければ」と焦り、もがいていた時期でした。

「こうやって病気の事わかってくれる人と、話ができるのはいいな。」「感染症対策とか、ずっとオレらやってきてたからな。世の中がオレらに追いついたんよ」と、言ってくれた子がいました。

「友達と会えない」 「学校に行けない」
「外で遊べない」 「勉強が心配」



病気を抱える子どもたちにとっては当たり前、しかし今までクローズアップされることのなかったこの思いが、奇しくもこの度の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、世界中の多くの人々が感じることとなりました。

全世界が苦しんだこの思いが今後も風化されることなく、病気を抱える子どもたちが今まで感じてきた思いに、他人事ではないと共感してもらえる社会につなげていくこと。

コロナ禍というピンチを、病気を抱える子どもたちが安心して暮らせる社会をつくるチャンスに変えていくこと。それが、私たちに新たに託されたメッセージなのだと、ポケットサポートの活動の必要性を認識することとなりました。



今年度のテーマは「コロナ禍を生きる、病気を抱える子どもたちに寄り添う」

医療関係者の方々の協力を得て、昨年 7 月からは活動中の小児病棟へ iPad を貸し出し、感染症に対し安全なオンラインで入院中の子どもたちの支援にあたっています。ポケットサポートの職員や大学生ボランティアたちも、画面の向こうで子どもたちの笑顔に再会し、学校から届いたプリントの問題を一緒に解き、達成感に満ちた子どもの顔も見ることができました。病室のベッドから出られない子どもへ、地元の学校の卒業式を中継することもできました。

教育現場でも、オンライン授業や遠隔授業などがスタンダードになる潮流が生まれてきています。ポケットサポートでは5年前から行ってきたICTによる学習支援のノウハウを活かし、GIGAスクール構想にも連動させて、病院と学校、自宅療養中の子どもと私たち支援者をオンラインで結ぶなど、感染症に対し安心な環境の中、子どもたちにタイムリーに必要な学習や交流などの支援をつないでいきたいと思えます。



そこで必要となってくるのは、支援のネットワークづくりです。昨年調査・集計した「岡山県内の学校現場における慢性疾病を抱える子どもたちの支援課題及び事例に関するアンケート調査報告書」では、学校の先生方からの復学に関するニーズとして「学習支援」の他に、様々な機関との「連携」「情報の共有」や、医療関係者への「相談先」が欲しいという声が上がってきました。

保健所や県教育庁との今までの連携を活かしながら、2021年度は教育と医療がさらに近づけるよう、病気を抱える子どもたちを地域で支える支援者同士のネットワーク強化にも力を入れていきます。



昨年度も、コロナ禍で大変な状況の中にも関わらずポケットサポートの活動に賛同いただき、多くのご寄付やご支援をいただきました。寄付の割合も年々増加傾向であり、多くの方に支えられ応援いただける団体になれたのだと、感慨を深くしました。「ポケサポ応援団」の中には、お手紙やSNSで私たちの活動について触れてくださる方など直接応援メッセージを見る機会もあり、温かい気持ちを感じることができました。

今年度は、「ポケサポ応援団」の方ともオンラインという強みを活かし、距離を超えてつながり、子どもたちへの思いや未来について話し合える、そんな場づくりもできたらと思っています。これからも、応援団の温かい思いを、ポケットサポートを通じて子どもたちへ届けるためのメッセージの役割を担わせてください。

そして、病気を抱える子どもたちの事を思い、未来を作っていける全ての仲間たちと、コロナ禍という難局を乗り越えながら「ニューノーマル」を一緒に育んでいきたい。この苦難の時代の教訓を活かし、病気を抱える子どもたちに優しく安心して過ごせる社会をつくっていく。

その思いで2021年度はスタートを切っていきたいと思えます。

代表理事 三好 祐也

2. 2021年度（令和3年度・第7期）事業計画書

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
個別学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに 対しての学習サポート	年間 延べ 60名	小中高校生 延べ30名	随時	500,000
双方向WEB 学習支援	ICT機器とWEBを活用した学習支援	年間 延べ 250名	小中高校生 延べ100名	随時	500,000
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う 人材育成、ボランティアリーダー育成	年間 延べ 20名	大学生 延べ100名	年5回 オンライン等	300,000
オンライン支援の 岡山モデル構築	WEB遠隔操作できるロボット開発及び 多職種連携によるモデル構築と全国発信	年間 延べ 100名	教育・医療等 関係者300名	随時	1,500,000
教育現場との 連携強化	職員向けChromebook導入と 教育現場でのオンライン支援連携強化	年間 延べ 50名	教育・医療等 関係者100名	随時	400,000
小計					3,200,000

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
ポケット スペース	利用者の環境に応じた相互交流、 ピアサポート相談、学習支援を実施	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ130名	年間120日 市内3拠点	2,200,000
交流イベント	季節に応じた体験交流イベントの開催	年間 延べ 30名	小中高校生 延べ100名	年4回 オンライン等	500,000
きょうだい・ 家族ケア	当事者同士の語らいによる ピアサポート、自分らしい家族形成支援	年間 延べ 30名	当事者家族 延べ50名	年4回 オンライン等	300,000
小計					3,000,000

(3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
講師派遣事業	大学等の教育機関や研修会等に講師派遣 病弱児支援の広報、周知活動	年間 延べ 20名	受講者 延べ600名	随時	200,000
副島先生講演会	病弱児の教育や療養環境について 講演会開催	年間 延べ 20名	参加者 延べ200名	2月 オンライン	500,000
多職種連携による 支援ネットワーク	岡山・倉敷・津山地域における 医療・教育の関係者を対象とした講演会	年間 延べ 30名	教育・医療等 関係者300名	8・10・12月 オンライン	600,000
アウトリーチ 拡大	支援を必要としている子どもと家族への 周知および支援提供	年間 延べ 50名	当事者家族等 200名	随時	1,000,000
小計					2,300,000

事業費合計：8,500,000円

3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

Vision（解決を目指す社会問題および実現を目指す理想像）

病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる

Mission（ポケットサポートが社会で果たすべき使命）

1. 『環境をつくる』

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 『生きる力を育む』

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 『人や気持ちを繋ぐ』

病気の子どものに関わる人をつなぐコーディネートを行うと共に
社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく

<2025 年度に実現を目指す社会や対象の状況>

1. 『環境をつくる』取り組み

- ①学習、遊び、体験、相談を通じた復学支援・自立支援を行う
- ②外出困難な子どもや家族へ、アウトリーチやICT 利用による学習や相談支援を行う
- ③入院中や療養中の子どもの対応を個別に検討
- ④教育行政や学校現場と連携し、慢性疾病等の小学生～高校生の入院中及び療養中の教育機会の提供を目指す(ICT 利用による学習、出席代替のシステム作り等)
- ⑤スタッフ及び支援ボランティアをはじめとする支援者の育成と教育
- ⑥岡山市内・近隣地域を含む医療機関内での支援活動を行う

2. 『生きる力を育む』取り組み

- ①子どもたちが自分自身の困難を知り「伝える努力」と「休む勇気」を持てるようピアサポートを通じて、合理的配慮を得るための手法を伝え広める
- ②保護者が集まり日頃の悩みを話す場、ピアカウンセリングできる場を提供
- ③病弱児やそのきょうだいも楽しめるイベントを開催
- ④病弱の若年者が働ける環境作りの協力と支援

3. 『人や気持ちを繋ぐ』取り組み

- ①医療・保健行政との連携による、慢性疾患児やその家族との関係構築
- ②岡山市内・近隣地域の学校との連携による、慢性疾患児の学校生活における個別案件の共有
- ③他の病弱児支援団体との連携やノウハウの共有・会の共催
- ④病弱児の置かれている環境の理解を広げる講演・啓発活動開催、ツール作成